

父

が軍人だったので、私は戦時中大陸の蒙古や中国、満州で少年期を過ごしました。14歳のとき予備士官候補生になりました。当時はだれでもよかったのです、男だったらね。しかしすぐに終戦です。満州になだれこむソ連軍に追われ、母と幼い弟、そして祖母を連れて荒野をさまよいました。無事帰国できたのですが、その後は母の故郷岡山で過ごし、24歳で20世紀フォックス社の宣伝の仕事をするようになりまして。やがて母が亡くなり、まだ幼い弟や妹を連れて上京しました。アメリカの映画会社に入ったのは、それまで受けた教育から一転した民主主義の本質をアメリカ映画から教えられたからです。素朴だが鮮烈な感動がありました。



当時は先端的だった星型住宅(スターハウス)

もう戦後10年以上たっていました。東京は大変な住宅難でした。目黒の木造の家の一部屋をやつと借りられました。その頃から私はアメリカ映画とアメリカそのものの研究に没頭しはじめていました。慶応義塾大学でアメリカ文学を学び、さらに江戸庶民文学の研究もやりました。貧しいけれども私にとっては未来が輝いている時代でした。

そんな頃、当時の公団住宅に当選したのです。たしか補欠だったかと思いますが、公団なんて憧れの住まいで

幸運でした。津田沼の北にある前原団地で、でかけてみると津田沼の駅のまわりには商店が少しある程度で、団地は畑や丘、雑木林がひろがるどころでした。ほんとうに生活できるの心配でした。入居したのはいわゆるスターハウス。当時としては斬新な設計の星型住宅の5階で、日当たりもいい3Kでした。しかし、第3人妹1人の家族5人で暮らすのですから、ちやぶ台で食事をし、片づけてふとんを敷くという昔ながらのスタイルです。当時の公団としては寝食分離を考えて設計されたようですが、わが家はそんな余裕はなかったですね。

通勤も楽ではなく、津田沼へは歩きました。新京成電車も通つてはいましたが、津田沼では国鉄の駅と相当離れていましたから。総武線も各駅停車しかなく、秋葉原で乗り換



現在は便利になった新京成電鉄

特別寄稿 思い出の団地生活

高層の集合住宅に緑の芝生が映える



僕は幼稚園から小・中学校、それに高校までずっと当時の公団の武庫川団地で過ごしました。いわば団地っ子なんですね。野球選手のなかでも巨人の上原浩治とか高橋尚成とかも団地っ子で、先日も3人で集まったら団地の話で盛り上がりました。ただ単に懐かしいのではなく、住まいや暮らしについて共通の価値観や暮らしの知恵があつて、生き方や考え方にお互いに共感・共鳴できるのです。

僕が住んだ最初の住宅はメゾネット



大胆な色彩計画の住棟 緑の森とテニスコート

トタイプでした。こどもとして家に2階があるというのはいわばステイタスで、いつも仲間をよんでは1階2階を上がつたり降りたりして騒ぎました。武庫川団地はかなり広い団地でしたから外の遊び場にも事欠きません。広場や空き地、はらっぱがあちこちにあつて遊び回りました。そんな少年時代はとも恵まれていたと思います。また親としても団地暮らしはとても安心だったのでないでしょうか。ほぼ住民のみんなが顔見知りでしたし、どの家になんかこどもがいるのかわかつていて、すべてのこどもにそれとなく気を配つていて、こどもは団地のみんなに守られているという感じていたから、いまでいうコミュニティがしっかりと根づいていたと思います。

なんとなく野球が好きになって、小学生の時から団地の少年野球チームに入りまして。しかし日曜でも朝早くから厳しい練習があつて、みんな自由に遊んでいるのを横目でみて羨ましく思いましたね。なんだか野球をやらされているって感じていた。しかしのちに少年野球もでき、いっそうががんばるようになり、いま思

野球人生のルーツは 武庫川団地



清水 直行

しみず なおゆき
千葉ロッテマリーンズ 投手

1975年兵庫県生まれ。報徳学園高から日大社会人野球の東芝府中 東芝を経てドラフト2位で千葉ロッテマリーンズに入団。3年連続2ケタ勝利を挙げ、2000年エースの座を獲得。2003年オーストラリアに出場。アテネオリンピックにも日本代表メンバーとして参加。



1987年(昭62)武庫川イーグルス主将の清水選手(12歳 中央)

えは僕のその後の野球人生のルーツはこの武庫川の団地にあるのです。高校は甲子園でも優勝したことのある報徳学園に入りました。家から武庫川を10キロほどですが、自転車に乗ったり、走ったりして通いました。残念ながら在学時には甲子園には出られなかったのですが、体力づくりにには役に立ったと思っています。大学は日大ですので東京へ出て、それから社会人野球の東芝府中に入り、のち東芝に移りました。6年前に幸いドラフト2位でロッテに入団させていただきました。おかげさまでロッテは今期前半好調で、交流試合にも優勝しました。私たち選手はとにかく無心で一生懸命やっています。ですが、バレンタイン監督はさま



清水選手が自転車や走って通った武庫川群



清水選手を育てた相田正輔前代表



2004 アテネオリンピック出場記念 武庫川イーグルスと清水選手

水野 晴郎

みずの はるお
映画評論家

1931年生まれ。監督 脚本家 TVコメンテーター 俳優でもある。日本ペンクラブ 日本文芸家協会会員 世界警察官協会日本支部会長 日本文芸大賞 郵政大臣賞など受賞。アメリカ社会学 警察学博士 著書多数。大阪芸術大学客員教授。



毎日がきらめいていた あの時代

私の前原団地の暮らし



大きくなった樹々を残して建て替えられた

えて有楽町で降り、銀座の三原橋の会社に通いました。夜も毎日おそくなりまして。しかし若くて元気なんです。5階まで階段を走って上がっていました。なんといつてもちやんとした自分の住まいがあるというのがなによりの幸せでした。その公団に30年暮らししました。いまから考えるとよく住み続けたものと思います。一番多く仕事をし、極めて忙しく働いた年代ですからね。深夜銀座からタクシードリ、朝は普通の時間に出動しなければならぬ、その時はユニイト映画の宣伝総支配人をやっていましたから部下もいますし大変でした。お隣に口うるさいおばさんがいます。なにかにつけて文句をいにくるので。近所でも評判でした。考えてみると集まって住むというのはそういうことなんです。その人の



新しい表情を見せる 街のたたずまい

おかげでルーズな暮らしにならなかつたのかも知れませんが。39歳で日本テレビの映画番組の解説者になって独立、その後映画評論やTV出演でいっそう忙しくなりました。それを機に南青山に移り、もう20年になります。仕事の上では便利の上なしで、映画「シベリア超特急」シリーズの監督や出演、日本やアメリカの大学の教授といった多忙な仕事ができるのもこの青山であればこそかも知れません。しかし東京という都市の渦のなかについて、いまでも時折、前原での大きな空や濃い緑や吹き抜ける風を思い起こします。過ぎ去った青春の日々ということでしょうか。(談)